観察記録 (Observation)

シラタマタケを利用するハチ目昆虫の観察記録

Observations of hymenopteran insects consuming *Protubera nipponica*

岩間 杏美

Ami Iwama

福岡県福岡市南区

Mimami-ku, Fukuoka-shi, Fukuoka, Japan

E-mail: amitake85@outlook.com

Article Info: Submitted: 26 March 2023 Published: 30 September 2023

1. 観察を始めたきっかけは、きのこに群がる「アリ」との出会い

今回の題である「シラタマタケとハチ目」について書く前に、きのこに関係する「アリ」との出会いがなければ今回の観察はできなかったと思います。そのため、まずは「きのことアリ」の観察を始めたきっかけを書きたいと思います。

私は、福岡県を拠点に様々なきのこを観察し、写真を撮影したりスケッチをしたりするのが大好きです。この日もいつものように森の中へきのこ探しに出かけました。夏の森（2022 年 9 月）は、少し歩くだけで汗をかき、ペットボトルに入れたお茶を満タンにしていても序盤ですぐになくなってしまいます。今年は雨も少なく森の中の地面も乾ききっている様子で、きのこの姿を見る機会も少ないように感じました。そんな時に地上に顔を出していたのがミドリニガイグチ *Chiua virens* (W.F. Chiu) Yan C. Li & Zhu L. Yang の成菌（図 1）でした。

いつものように同定や写真を撮ったりするためにきのこを採取したのですが、その時に根元に残った菌糸にアリの仲間が急いで群がってくる様子が観察できたのです。

アリたちはどうして集まっているのかと思い、その場でじっと観察をしてみると、そのアリの腹部がだんだんと膨れだし、限界に達すると来た道を戻っていくようでした。この様子はアリが菌糸から水分を摂取しているようにも見えました（図2）。この観察をきっかけに、きのこを利用するアリについて興味を持ち始めました。

図 1. ミドリニガイグチの子実体.

図 2. ミドリニガイグチの柄の根元に残った菌糸に集まるアメイロアリ.

© The Japanese Association for Truffle Science (JATS), 2023

2. シラタマタケに群がるアリとスズメバチの観察記録

2022 年はシラタマタケ *Protubera nipponica* Kobayasi が福岡県内で出始めたのは 9 月ごろで、枯れ木の周辺や、道脇、スギ林に設置された木道周辺など、発生地は様々でした。今回は 3 地点（仮に A、B、C 地点と表記）でシラタマタケの観察ができたので、ここに観察記録を記します。

A 地点（2022 年 9 月 11 日～ 10 月 18 日観察）

この場所は標高 100 m ほどにある渓流近くのスギ林で、そこに整備された木道の近くにシラタマタケが発生していました。発見日は 9 月 11 日（図 3）で、発見時はグレバが白色の未熟な子実体でした。それから約 1 か月後（10 月 18 日）、これらのシラタマタケに変化がありました。胞子は成熟している様子で、子実体にはいたるところに穴が開いていました（図 4）。

図 3. 成熟前のシラタマタケ（9 月 11 日）.

図 4. 成熟したシラタマタケ（10 月 18 日）.

何がいるのか…ワクワクしながら観察をしようと腰を下ろしたときに、まず最初にシラタマタケの周辺でせわしなく歩いている昆虫の様子が観察できました。それは、アズマオオズアリ *Pheidole fervida* Smith, 1874 の小型働きアリと大型働きアリでした。小型働きアリはシラタマタケに空いた穴から内部に入り（図 5）、大型働きアリは外を歩き回っていました。

次に観察できたのは、アメイロアリ *Nylanderia flavipes* Smith, 1874 という小型のアリでした。アズマオオズアリとまぎれるようにシラタマタケの中を動き回りグレバの部分を噛んでいる姿が観察できました（図 6）。

図 5. アズマオオズアリの小型働きアリがシラタマタケ内部に入る様子.

図 6. グレバを噛んでいるアメイロアリ.

B 地点（11 月 16 日観察）

この場所は標高 500 m ほどの、コナラ・クヌギなどの落葉広葉樹が生えているキャンプ場で、その一角にある枯れた樹木の根元付近にシラタマタケが大量に発生していました（図 7）。グレバも成熟しており、シラタマタケの表面からはゼラチン質の液体が流れ始めていました。その様子を観察している最中にハヤシクロヤマアリ *Formica hayashi* Terayama et Hashimoto, 1996 が 4、5 匹ほどシラタマタケを見回りしている様子が観察され、何をしているのだろうかとアリの後を目で追っていると、シラタマタケの内部に入ったり、顔を突っ込んでいる様子が観察できました（図 8）。

© The Japanese Association for Truffle Science (JATS), 2023

図 7. 枯れた樹木の根元に発生したシラタマタケ.

図 8. シラタマタケに空いた穴に頭を入れるハヤシクロヤマアリ.

C 地点（11 月 16 日観察）

この場所は標高 400 m ほどの山の頂上付近。近くには車道も通っていて、ハイキングコースとしても親しまれている場所です。その脇道にたたずむ枯れ木で今回シラタマタケが見つかったのですが、この時はシラタマタケがあることにまだ気が付いていませんでした。気が付いたきっかけは、「スズメバチ類」が地表近くでせわしなく動いていた行動を観察したことでした。今回見つかったスズメバチはコガタスズメバチ *Vespa analis* Fabricius, 1775 で、3 匹ほどが枯れ木の根元付近を熱心に動き回っていました。おそるおそる近づいてみると、コガタスズメバチが一生懸命、シラタマタケの表面に空いた穴やひび割れから染み出した透明な液を舐めていたのです（図 9）。シラタマタケがスズメバチに利用されていることは耳にしていましたが、このような形で観察できるとは思っていませんでした。

図 9. シラタマタケ表面の透明な液を舐めているコガタスズメバチ.

3. 観察記録まとめ

今回、シラタマタケを利用するハチ目（アリ科、ハチ科）の昆虫を中心に観察したまとめを描いてみました（図 10）。

4. 最後に

今回原稿を書く際に当初はスズメバチのみについて書こうと思っていましたが、シラタマタケを利用している他のハチ目を観察することができたので一緒に観察記録を書かせていただきました。シラタマタケを利用するハチ目については、昨年が初めての観察になるので、これからも観察を続けていきたいと思います。今回の執筆にあたり、報告の機会をいただきました山本航平氏にはこの場をお借りしてお礼申し上げます。

© The Japanese Association for Truffle Science (JATS), 2023

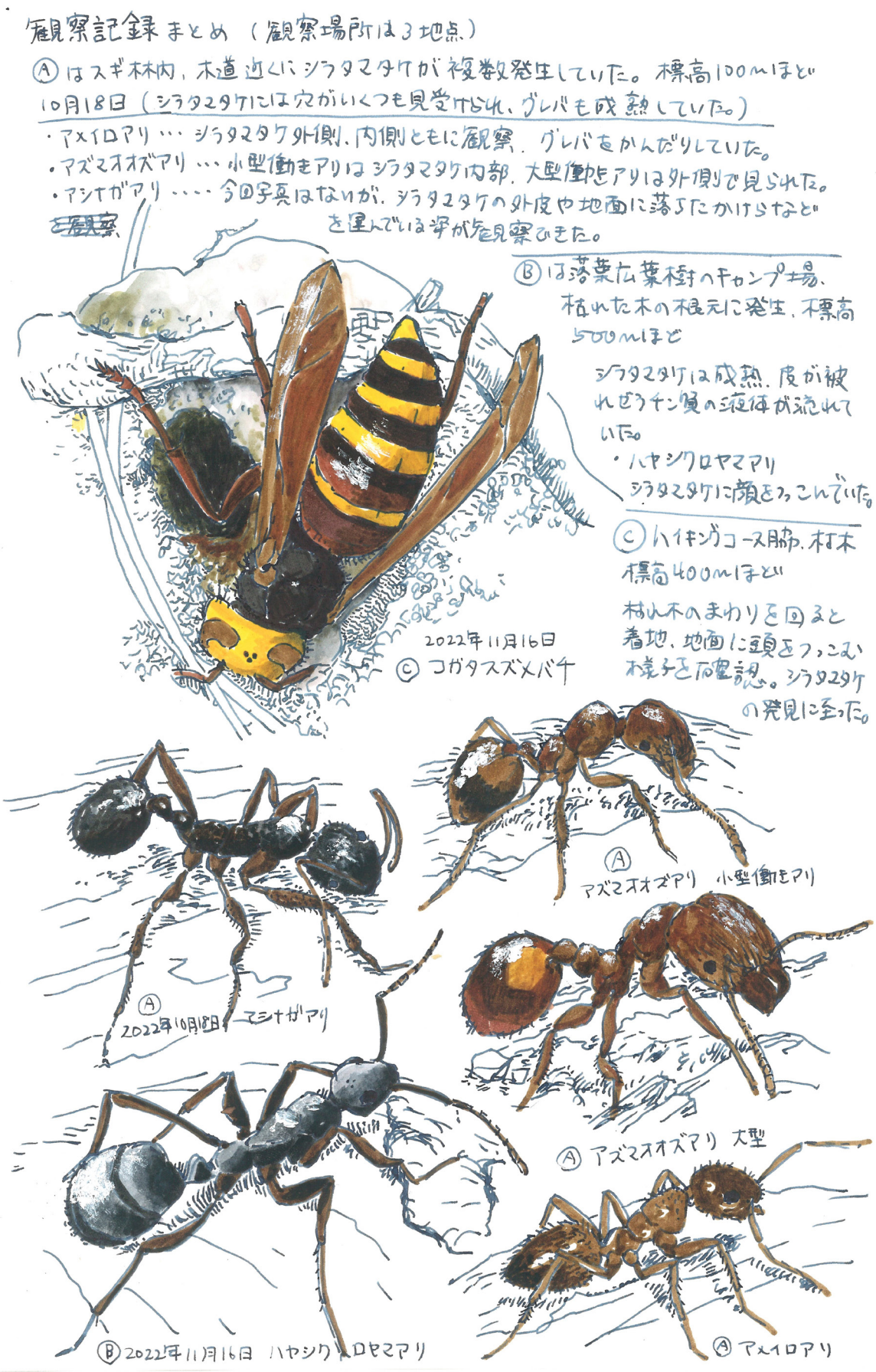

図 10. シラタマタケを利用するハチ目昆虫の観察記録まとめ.

© The Japanese Association for Truffle Science (JATS), 2023